世界各地の相撲&レスリング

＊主要参考文献　石川栄吉、梅棹忠夫、大林太良ほか編.1994.『文化人類学事典』.弘文堂。
稲垣正浩、野々宮徹、寒川恒夫ほか.1996.『図説スポーツの歴史』.大修館書店。
大林太良、岸野雄三、寒川恒夫ほか編.1998.『民族遊戯大事典』.大修館書店。
寒川恒夫編著.1995.『相撲の人類学』.大修館書店。
日本スポーツ人類学会.1999-2002.『スポーツ人類学研究』.創刊号～第4号。

	国・地域、民族		相撲の名称	期日・意義・特色
アジア	アゼルバイジャン		ギュレシュ	ラウンド制、寝技あり。
	アフガニスタン		コシティ	ターバンをマワシとして巻き、持久戦で戦う。
	アルメニア		コホ	音楽伴奏付き。
	イラン		コシュティ	ズールハネ（＝「力の家」男子身体訓練場）のなかで行なう。イスラム教シーア派のアイデンティティ形成文化といえる。
	インド		パラティヤ・クシュティ	多くの相撲部屋があり、徹底した禁欲生活を送っている。
		山岳地帯のナガランドに住むナガ系諸族	キュケペ（キュカ・アンブー、リュピング）、キボ、ケンネー	結婚式にて花嫁家側と花婿家側の対抗で行なわれ、いずれが長生きするか、または子どもは多いか少ないかが占われる。死者祭として行なう所もある。
		マニプール州のメイテイ族		王の前で行なわれる相撲では、勝者は王に敬意を表するために、跳び上がり空中で右の尻を叩いて大きな音を出した。
		アッサム高原に住むカシ族		互いに指を取り合い、その状態で押し合い相手を倒す。そのまま持ち上げても勝ち。
	ウズベキスタン		クラッシュ	
	オマーン		ラッタジュ	
	カザフスタン		カザクシアクレス	
	韓国・北朝鮮		シルム（左シルム、右シルム、帯シルム、パ・シルム）	サッバ（布帯）の巻き方によって4種類に分けられる。韓国では左シルムが最も普及しており、プロ・シルムもこのスタイル。
	グルジア		チタオバ	袖の短い柔道衣のような上衣、短いパンツ、レスリングシューズを履いて行なう。
	シベリア地域	チュクチ族		神明裁判としても行なわれた。
		ヤクート族		春に牛の多産を祈念する祭で行なう。相撲は冬と夏の戦いを意味する。
	タイ		チョンガイ	
	台湾	アミ族	オロツ	夏の粟の収穫祭で行なう。女性は公然と見ることを許されず、隠れて見物した。
		サイシャット族		もめごとが起きたとき、相撲などの勝者を正者とする神明裁判の制度があり、特に姦通の際には相撲で決められた。真に姦通した者には、神霊が味方せず、決して勝てないとされた。
		バイワン族		粟収穫祭の行事。
		ブユマ族	マリウリウス、マルブルブ、マルフルフ	粟の収穫祭で行なう。日本の相撲に極めて類似している。
	タジキスタン		カウ	
	タタールスタン共和国		クレス	
	中国		シュワイジャオ	袖の短い柔道衣のような上衣、短いパンツ、レスリングシューズを履いて行なう。体重別、ポイント制。
		イ族		夏の松明祭で行なう。互いの腰帯をしっかりと持ち、両肩を着けるように投げると勝ち。足をとることは禁止。
		朝鮮族	パ・シルム	サッバ（布帯）の巻き方、そして組み方が他のシルムとは大きく異なる。
		トン族	パンジャオ	旧暦2月15日、3月15日が相撲節。村を襲った虎を英雄が退治した故事による。帯の両端をつかみ、それを相手の腰にまわしてマワシの役目をさせる。
		ブイ族		闘牛の様子を真似て頭と頭を突き合わせ、「モーモー」と声を掛けながら行なう。
		モンゴル族	ブフ（ウジュムチン・ブフ）	上半身に皮製の半袖のチョッキを、下半身にはだぶだぶの白いズボンとにブーツを履く。日本では一般的に「モンゴル相撲」と呼ばれる。
		ハニ族、ワ族、プニ族、トールン族、チャン族、チベット族、ウイグル族、回族、満州族		中国西南の少数民族では、はじめにがっぷりと組み合い、のちに相撲をとるルールが発達。ルールの細部は異なる。
		4年ごとに開催される「全国少数民族伝統体育運動会」では、モンゴル族式、チベット族式、イ族式、ウイグル族式、回族・満州族式が採用されている。		
	トルコ		ヤール・ギュレッシュ	革ズボン着用、裸身に油を塗る。寝技あり。毎年夏にクルクプナルで全国大会が開催される。
			カラコジャック	革ズボン着用、裸身に油を塗る。寝技あり。音楽伴奏付き。
	日本		8世紀前半～12世紀末：「相撲節」旧暦7月7日に天皇が諸国から力士（相撲人）を召し出して行なう、一大年中行事であった。相撲の場は小宇宙を象徴。 中世～：武士が戦場組み討ちの練習として相撲に親しんだ。 近世：「勧進相撲」寺社は勧進のために相撲興行に着手、大阪、京都、江戸において幕府公認のビジネスとして定着し、今日の大相撲に及んでいる。 今日では民俗行事として各地に相撲神事、芸能・儀礼相撲、祭礼相撲がみられる。	
			柔術諸派、古武道	
		沖縄	シマ（沖縄角力）	柔道衣を着て、四つに組んだ姿勢から始まる。朝鮮の帯シルムに類似。夏に各地で盛んに大会が開かれる。
	パキスタン		クシュティ	インド相撲と同じであるが、精神性を伴なわない。
		パターン族		上半身裸でケンケン相撲を行なうが、技は強烈。
	ベトナム		ドウ・バット	年4場所開催される。
	ミャンマー	ラケール族	アビアバ	日常的ではなく、結婚式や他村から若者が来たときに行なわれる。
	モンゴル国	モンゴル族	ブフ（ハルハ・ブフ）	革命記念日に開催されるナーダムの大人気種目。長袖のチョッキのような上衣と短いパンツ、ブーツを履く。入場の舞「鷹の舞」。
				強豪選手は国民的英雄として尊敬を集める。日本では一般的に「モンゴル相撲」と呼ばれる。
オセアニア	インドネシア	アンダマン島	アドレンガ	子ども達がしばしば砂浜で行なう。
		アンボン島、ウリアッサ島	パナエ・ムリン	子ども達だけが行なう。
		サブ島	ペルラエ	胴体だけを布で覆って対戦する。相手をつかまえると力の限り振り回し、地に投げようとする。
		シウー諸島	ムダリア	男達だけの競技。互いに組み合ってからはじまる。
		ジャワ島のアローン	グルカン（ジャグウィアン）	四節句の行事。
		スマトラ島のアチェー族	メウルホ	子ども達が好んで行なう。
		スマトラ島のバタク族		部族祖先に牛を供犠する祭りで行なわれ、卜占の意味をもつ。
		セラウェシ島		ブギ族でスヤガポワング（マティケング）、マカッサル族でシタパサング
		ニアス島		
		ニコバル島		男達によって精霊の前で行なわれる。
		ボルネオ島のバハウ族、ケンヤ族	パジョウ	若者が新年祭に相撲をとる。腰帯だけをまとい、相手の腰帯の後ろをつかんで組み合い、相手を持ち上げて背中をつかせると勝ち。
		メンタウェ島	パラパ	子ども達が行なう。
	オーストラリア	アボリジニー 北東海岸部に住む部族	ドナマン（アルンガ）	片方が攻撃、片方が防御と役割を分化させている。両手を上げたままの防御者を、攻撃者は腰に両手をまわし持ち上げ投げれば勝ちとなる。成人式（割礼）に行なう。
		ニュー・サウス・ウェールズ州のユーフライに住む部族	ゴームブーブードゥー	割礼のときに氏族が対抗して行なう。
		ビクトリア州のムーレイに住む部族		体に油を塗る。夏に親戚関係の氏族が集まった時に行なう。
	フィリピン	ルソン島のイフガオ族	ドバップ（ブルトン）	勝負の前に予め組み方や用いる技を決める。神明裁判でもあった。
			ハンキン	ケンケン相撲。寝て行なう足相撲もあった。
		マリンドゥケ島のタガログ族	ブノ	組み合った姿勢からはじめる。
		ボントック族	ウン・ウノング	村と村の紛争の際に問題処理として行なわれた。
	ポリネシア	サモア	ファレガセ（タウファナトゥガ、ファンガトゥアンガ）	裸身に油を塗る。投げがとても強いため、頻繁に事故が起きたという。葬式の時に行なう競技の一つ。
		トンガ	ファンガツァ	ヤムイモの収穫予祝祭、客人歓迎式、死者祭、タブーを解く儀式などに際して、また神明裁判としても行なう。女相撲もあるが、基本的には男のスポーツ。
		ニューギニアのマオリ族	ママウ	死者祭に行なう。ふつうは男と男が対戦するが、1人の男に2人の女がかかる相撲もある。
		ニュージーランド	ワトト	女もときどき加わる。
		ハワイ	ハコーフ	マカヒキ（新年祭）の定番種目。戦闘訓練としても。組み相撲と組み手争いをする立ち合い相撲が行なわれた。
		エリス諸島		相手の胸を3度叩くことが相撲挑戦の合図。
		トゥアモトゥ諸島	ファガトゥア（ファト）	
		ニウィ島	タウファガトゥア	
		フツナ島	ワトト	死者を埋葬した後で、死者を讃えるために行なう。
		マルケサス諸島		
		ロツマ島		機を見て突然飛びかかりはじまる。
	ミクロネシア	ギルバート諸島	カウンラバタ	
		クサエ島	アセバル	右手で相手の髪の毛を掴んで引き寄せ、足をかけるなどして押し倒す。王の命令で大規模な対抗戦もあった。
		ナウル島	エアカバレレ	子供が生まれた機会に相撲をとる。女相撲もある。村と村の対抗戦も行なわれた。
		ナモルク島	アウラス	
		ヌクオロ島	テタウタウ	戦に備えて体を鍛えるために行なう。
		ペラウ島	カイドボドボグ	
		ポナペ島	パトル	
		ヤップ島、マリアナ諸島		

渡邉昌史（2003）世界各地の相撲＆レスリング『2004「総合＆組技格闘技」選手名鑑』日本スポーツ出版社．pp. 244-245

	国・地域、民族		相撲の名称	期日・意義・特色
オセアニア	メラネシア	フィジー	オノ	酋長の死、少年の割礼の際に行なわれる。
			ヴァイサガ	小高い丘の上で男と女が対戦し、男のねらいは相手を投げて抱き合ったままで丘の下まで転がり落ちることであった。
		旧英領ニューギニアのモツモツ	フォイベア	
		トレス海峡の西部諸島		

南北アメリカ	アメリカ	南西部に住むナバホ族		
	カナダ	イヌイット	ウナタラトァト	狩りの成功を祝う儀式として、夜の楽しみとして行なう。
	アルゼンチン	南米最南端のティエラ・デル・フェゴ島に住むヤーガン族	カラカ・ムラカ	相撲は男のスポーツであり、女子は禁止。相手の足元に小さい土球を置くことが挑戦の意思表示。勝者は男の威信の証のみならず、若い娘が伴侶を選ぶ条件にもなった。
		パンパ草原などに住むパンパ族、ランケル族、アラウカノ族	ロンコテオ	
		ンビジャー族	クワバ（クロバ）	
		オナ族、セルクナム族		
	ブラジル	アウエッチ族	ウッカ・ウッカ	四つんばいの姿勢から始める。
		シングー川上流域のカマユラ族		豆科植物の油を体に塗る。四つんばいの姿勢からはじまり、女も行なう。
		アマゾン川の支流アラグァイア川の中洲バナナル島に住むカラジャ族		相撲は宗教的儀礼と村訪問に欠かせないもの。
		ボロロ族、カインガン族、ジェ語族		
	ベネズエラ	オリノコ川河口デルタに住むワラウ族		大きな楯を持ち、互いに楯でもって押し合う。相手を押し倒すか、ある所まで押し込めば勝ちとなる。
		サバンナに住むカリニャ族		客人歓迎会の幕開け行事。

ヨーロッパ	アイスランド		リクスベンナ、アクスラトーク、ブクスナトーク、ロイサトーク	レイクファング（「レイク＝遊び」「ファング＝格闘技」）のさまざまな形態。
			グリマ	ケルト系の相撲☆。レイクファングを集大成したもの。
	アイルランド			ケルト系の相撲
	アルバニア		ムンジェヴェンドス	
	イギリス	スコットランド	バックホールド	ケルト系の相撲☆
		コーンウォール	コーンウォール（デヴィン）	ケルト系の相撲
		ウェールズ		ケルト系の相撲
		カンバーランド	カンバーランド	ケルト系の相撲
		ウエストモーランド		ケルト系の相撲
	ウズベク		クラーチェ	音楽伴奏付き。
	オーストリア	ザルツブルク地方	ランゲルン	全勝者は1年間「ハグモアー（その土地の長）」という名誉を得る。
			ユッペリンゲン	
	グルジア		チダオバ	
	スイス		シュヴィンゲン	相手を回して投げ落とすのが特徴的「シュヴィンゲン＝振りまわす」。ズボン着用、寝技あり。1895年より全国組織化された。
			リュッツェン	
			レイプリンゲン	
			ホゼンランフ	
	スウェーデン		タ・リヴタグ、タ・クラクダ	互いに襟を握り合い組み手を固定して行なう。
			アクセルタグ、ボンデタグ	相手の背中で両腕を組んではじめる。
		ラップランド地方	リッグカスト	
			ビクスカスト	左手で相手の背中を、右手で相手のズボンを握りはじめる。
			クラグカスト	異なる襟の握り方で行なう。
			ラップカスト	身を捨てて相手を頭越しに投げ合う。
		西ゴトランド地方	タ・ボルグタグ	ベルトを握り合ってはじめる。
	スペイン	レオン県	ルチャ・レオン	短パンにTシャツ。年齢別・体重別に競う。ベルトをしっかりとつかんでからはじめる。韓国のシルム、スイスのシュヴィンゲンなどとの類似性が見られる。
		カナリヤ諸島	ルチャ・カナリア	年齢別、体重別に競う。半袖シャツにズボンの膝下をまくりあげる。グアンチェ族の儀礼に起源をもつといわれる。
	タジク		ゴーティ	
	デンマーク	フェロー諸島	アラスラトーク、ブライズラトーク、ブローカトーク	
	ドイツ	ブラウンシュワイヴ	ロベルン、ラウフェン	明確なルールはない。
	ノルウェー		リッキェクネッパ、リクタク	相手の上体をサバ折りにする。
			ブクセタク、ファムタク	相手のズボンのウエスト部と大腿部を握って組み合う。
			アルメスラインキャ、スレンゲタク	相手の腕を摑んで振り回したり、足を引っかけて倒す。
	フィンランド		リヴタグ、ファムタグ	投げ技を用いない力比べ。
			リッグカスト	相手の上衣を持って投げ合う。
			ボルテスカスト、ビクスカスト	相手のズボンをつかんで投げ合う。
			クラグタグ、アルムタグ	自由に組んで投げ合う。
	フランス	ブルターニュ地方	グレーン	ケルト系の相撲☆
	ブルガリア			おもにイスラム教徒が居住する地域での祭日や結婚式に行なわれていた。
	ポルトガル		グラルホファ	
	ユーゴスラビア		ペリヴァン	寝技あり。
	ルーマニア		トゥリンタ	
	ロシア		サンボ	旧ソ連時代に旧ソ連各地の格闘技と柔道、レスリングをミックスさせたもの。

☆3つの相撲団体が1985年に統合して国際ケルト相撲連盟（International Federation of Celtic Wrestling）を結成した。

アフリカ	エジプト		バート・マスリー	
	ガーナ	アシャンティ族		柔道に似て手と足を自由に使って投げ倒す。
		クレンシ族		
	コートディヴォワール	ダン族	ゴン	大乾季のはじまる12月頃から2月にかけて、村落対抗試合が行なわれる。
	スーダン	バヨト族		植付祭と収穫祭に若者と娘が対戦する。豊穣予祝の性交を象徴的に再現する儀礼とみられる。
		ヌバ族		日本の大相撲に似た立ち合いをもつ。体に白い灰を塗り、全身を真っ白にして戦う（これにより神聖視される）。乾季の末に村対抗の大試合がある。
	セネガル		ブレ	国技とされ、首都のダカールで大々的に大会が開かれる。プロもあり、国民的英雄とされる。
		ウオロフ族、ディオラ族、ペペル族		植付祭と収穫祭に若者と娘が対戦する。豊穣予祝の性交を象徴的に再現する儀礼とみられる。
	ナイジェリア	イボ族		若者対娘の性的対抗はヤム芋栽培とかかわっている。
		バチャマ族		乾期の開始時と末に相撲大会（年齢ごとのチーム対抗戦）を行なう。相撲により、男の社会的価値が増加するといわれる。
		ハウサ族		女相撲もある。
	マダガスカル	南部のバラと呼ばれる人たち		リンガ
	東アフリカ	ブラウ族、ワシャン族		
	西アフリカ	フルブ族、デュアラ族		
	南アフリカ	ファン族、マダガスカル島のホヴァ族		
		ヤウンデ族		女相撲もある。
	アフリカ南部のカラハリ砂漠に住むサン（ブッシュマン）			

相撲およびレスリングとは、素手組み討ち格闘技のことで、もっぱら投げることで相手を倒すスポーツである。相撲とレスリングは数多くある人類の格闘技の中でも最も古いものの代表格であり、地域と文化を問わず、地球上の多くの民族によって行なわれている。日本では相撲に土俵はつきものであるが、実際日本に土俵が現れるのは江戸時代以降のことであり、それ以前は土俵はなかった。そして、世界で行なわれている相撲も土俵を持たない。

世界中に広がる相撲やレスリングのルールは実に多様だ。たいていは立ち技で勝負を決するが、はじめる姿勢、身体のどの部位をとって組み合うか、そして、どの部位を地につければ勝ちとなるのかといった点については統一がない。相撲をとる機会・目的についても、日常の娯楽や競技会のみならず、新年祭、収穫祭、客人の歓迎、出産祝、成人式（割礼）、葬式、など多岐にわたり、善悪の判断のために神明裁判としての相撲やレスリングも行なわれている。また、男だけに限らず、女同士の対戦もあり、男と女が相撲をとることも。こうした男女対抗の相撲やレスリングの意味は優劣を競うのではなく、性が象徴的結合を果たすことによって豊穣を確かにするといった願いがある。

このように、相撲&レスリングは世界の民族がそれぞれの伝統的文化・生活のなかで培ってきたスポーツであり、だからこそ民族のアイデンティティ形成には抜群の威力を発揮すると言えるだろう。